様式第３４号（その１）

連結散水設備標準仕様書

１．配　　管

(1)　配管の概要

配　管　型　式	□　乾　　式　　□　湿　　式
専用・兼用の別	□　専用とする。 □　他の消火設備（　　）と兼用する。
他の配管との識別方法	
防　食　措　置	
凍結防止措置	

□　主配管の内径は、（　　）㎜とする。

□　高架水槽等により常時配管内を充水する場合は、その２次側配管に止水弁及び逆止弁を設ける。

□　送水口の２次側配管又は選択弁の２次側配管に逆止弁及び排水弁を設ける。

注　配管の材質については、別紙のとおりとする。

(2)　配管内の充水方法

□　高架水槽（　　㎥）に直結する。

□　高架水槽と接続した専用補助水槽（　　㎥）に直結する。

□　その他（　　）

２．送　水　口（設置個数　　個）

□　送水口は、（□単口形　□双口形）とし、連結散水設備専用とする。

□　送水口は、送水区域（　　区域）ごとに設ける。

□　消防ポンプ自動車が容易に接近できる位置で、かつ、地盤面からの高さが（0.5≦　　≦1.0）ｍの箇所又は地盤面からの深さが（　　≦0.3）ｍの箇所に設ける。

□　結合金具は、差込式とし、呼称 65 の受け口とする。

□　送水口には、その直近の見やすい箇所に連結散水設備用送水口である旨及びその送水圧力範囲(　　MPa ～　　MPa)を表示した標識を設けるとともに、送水区域系統図を設ける。

注　送水口材質については、別紙のとおりとする。

３．選　　択　　弁（□有　□無）

□　選択弁は、送水口の附近に設ける。

□　選択弁は、操作及び点検が容易にできる屋外の位置で、かつ、地盤面からの高さが（0.5≦　　≦1.0）ｍの箇所又は地盤面からの深さが（　　≦0.3）ｍの箇所に設ける。

□　１の送水口に接続する選択弁の最大個数は、（　　≦３）とする。

□　選択弁には、直近の見やすい箇所に選択弁である旨を表示した標識を設け、かつ、受け持つ送水区域を明示する。

４．散 水 ヘ ッ ド

(1)　散水ヘッドの設置状況

設置階又は送水区域						
散水ヘッドの設置個数	開放型（個）					
	閉鎖型（個）					
１の散水ヘッドまでの最大水平距離　（m）						
最も低い位置にある散水ヘッドから送水口までの高さ					m	
送水口から最遠の散水ヘッドまでの管長					m	

□　散水ヘッドは、天井の室内に面する部分及び天井裏の部分に設ける。

□　散水ヘッドは、取付け面に対して、ヘッドの軸心が直角となるように設ける。

散水ヘッド仕様

種別／項目	閉鎖型散水ヘッド	開放型散水ヘッド
型　　式		
型式番号		
製造者名		
製　造　年		
取付け方向		
標示温度	℃	
基準放水量	ℓ／min	ℓ／min
基準放水圧力	MPa	MPa

備考：散水ヘッドの散水分布図を添付する。

散水ヘッドの材質については、別紙のとおりとする。

(2)　散水ヘッドの設置を免除する部分

階　別	免 除 部 分 の 用 途	面積（㎡）	免 除 す る 根 拠

備考:散水ヘッドの設置を免除する部分は、配管図において、色等により識別する。

５．添　付　図　書

□　付 近 見 取 図　　□　建築物の配置図　　□　平　　面　　図

□　断　　面　　図　　□　配 管 系 統 図　　□　配　　管　　図

□　機 器 構 造 図　　□　標 識 板 詳 細 図　　□　送水口付近詳細図

□　配管等の摩擦損失計算図　　□　配管等の摩擦損失計算書

６．そ　　の　　他

(1)　工事中において、設計書と異なる工事をしようとする場合は、工事管理者及び所管消防署の指示を受けて行うものとする。

(2)　工事竣工後、消防職員立会のうえ、所要の試験及び検査を受けるものとする。

なお、完成検査時、検査の困難な部分については、あらかじめ、所管消防署と連絡をとり中間検査を受けるものとする。

様式第３４号（その４）　　別紙

配 管 等 の 材 質 表（連結散水設備用）

名　　称		構　造	材　　質
管　　体			□ JIS G 3442　□ JIS G 3448 □ JIS G 3452　□ JIS G 3454 □ JIS G 3459　□
管　継　手 バ ル ブ 類			□ JIS G 5101 □ JIS G 5705（黒心可鍛鋳鉄品に限る） □ □
送水口	結合金具	呼称	□ 差込式結合金具規格合格品 □
散水ヘッド		□ 閉 鎖 型 □ 開 放 型	□ 閉鎖型スプリンクラーヘッド規格合格品 □ 開放型散水ヘッドの基準に適合する認定品